



Goodbye and Farewell Natalie Edmondson

It's always hard to say goodbye to good things, no matter how small. My time in Higashikawa was not small.

I have been the junior high school ALT since my arrival here four years ago. And these four years have been good ones. I have experienced many new things, like harvesting rice and then pounding it into mochi (fun) and driving on ice (less fun).

I'm sure I will spend a lot of time telling people about the beautiful nature and the delicious food. The fun festivals with the amazing fireworks, in the middle of both summer and winter. And how heavy it is to carry a shrine down a street.

I will tell them about the friendly people here and how they showed it in many ways. Seeing me on the street when I'm running a bit late to the Christmas party and carrying many things, then driving me to the building. Asking about my family after they'd been to visit. Being willing to change menu items for my tastes.

Most of all, I have enjoyed spending time with the students of the town. I have seen many of them grow and move on to the next stage of their lives. Their energy made me feel young and the fact that they never avoided me made me feel warm. They will always hold a special place in my heart.

But it is now time for me to move on to the next stage of my life. I don't know what the years to come will bring, but I know they will be better for the years that have passed.

【ちょっと豆知識】宮地晶子

goodbyeとfarewell、どちらもサヨナラの意。farewellのfareは「旅する、運ぶ」、wellは「うまく」なので「よい旅を」と長旅に使います。この言葉はひっくり返すとwelfare「福祉」という単語になります。「物事をうまく運ぶ」のが福祉ということなんでしょうね。good-byeはGod be with you.「神と共にあらんことを。」が縮まったものです。

GoodbyeそしてFarewell ナタリー・エドモンソン

どんな小さなことにでも、良いことに別れを告げるのは、つらいものです。それに私が過ごした東川での時間は、短いものではありません。4年前に来て以来、中学校の英語指導助手をしてきました。この4年はいい経験になりました。収穫した米を使った餅つき（楽しい）や凍結路面の運転など（楽しくはない）、たくさんの初体験をしました。

きっとこの先、多くの人に、この地の自然の美しさやおいしい食べ物のことを語りつづけるでしょう。素晴らしい花火が上がる夏冬の祭りの楽しさ。通りを練り歩く神輿の重さ。心温かい人々がいろんな方法で思いやりを示してくれたこと。例えばクリスマス・パーティ。遅れそうになって荷物をたくさん持って走っていたら、会場まで送っ

てもらえたこと。訪問中の家族を気にかけてもらったこと。好みに合わせてメニューを気持ち良くかえてもらったこと。

でも何より、児童生徒と過ごすのが楽しかった。その多くが成長し、それぞれの道を歩んで行くのを見られました。みんなの元気のおかげで自分も若い気分でいられたし、避けられることもなかった。いつでも暖かい気持ちでいられました。これからもずっと子どもたちは私の心の特別な場所に残り続けるでしょう。

でも私もまた、人生の次のステージに進むときが来ました。これからの歳月がどんなものになるかはわかりません。でも、ここでの年月のおかげでより良きものになるということは確かです。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第174回

ざっとでも、やる。

先日、スパゲティをゆでていて、ふと、作家・村上春樹さんのエッセイを思い出しました。「毎日決まった時間に起きて、小説を書き、昼食にパスタをゆでる。食べたら、走る。」というもの。大昔に読んだのに、なぜか気になり、ときどき思い出します。当時はたいそうつまらない日常に思えました。でも今なら、「ああそういうことか」と思えます。毎日、決まった手順で物事を進める。余計な選択肢を増やして脳を消耗しない。そうすることで長きにわたっ

て本当に大事なことをこなしていける。いわゆるルーティン化です。長編小説を書くときも1日原稿用紙10枚。もっと書けると思っても、そこで止める。反対にどんなに筆が進まないときも、粗くてもとにかく10枚は書く。修行僧の感じがしなくもないけど、英語を身に付けるのにも、このやり方はピッタリ。タイマーで流れるラジオ英会話。視聴予約で勝手に始まるテレビ英会話。小・中学生なら朝読書は英語で。それと、気分が乗ってるからと言って、頑張り過ぎないのも見習いたい。頑張りすぎると三日坊主になる。それより、やる気の出ない日も、一定量の単語に目を通す。完璧を求めると次へ進めないのだから、ざっと目を通しておいて、またやればいい。村上春樹さんの場合、見直す時間が、小説を書く時間と同じかそれ以上だそうです。ルーティンを大事にする人は他にもたくさんいます。ベートーヴェン、イチロー、オバマ元大統領。水泳の瀬戸大也にフェイスブックのCEOザッカーバーグ、アマゾンのCEOベソス。もううまく行く気しかしませんよ！